教科	国語	学年	第1学年

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準				
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	評価資料
一　学びをひらく はじまりの風	16	●比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使うことができる。 ●物語を読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする。 ●事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 ●比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使うことができる。 ●世界の動きや仕組みについて、理解を深めることができる。	・比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。 —図などを使って、心情の変化を整理している。 ・事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語感を磨き語彙を豊かにしている。 —作品中の「春」を感じさせる言葉に着目し、情景を想像している。 ・比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。 —5W1Hに注意して、キーワードとなる言葉を書き出し、要点を押さえて整理している。	・「読むこと」において、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉え、理解している。 —場面ごとに会話や描写を整理して、登場人物の心情や関係の変化を捉えている。 ・「話すこと・聞くこと」において、目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討している。 —日常の話題について、聞き取った情報を整理し、伝える内容を考えている。	・場面の展開や心情の変化などについて、描写を基に積極的に捉え、学習の見通しをもって意目した表現や心情の変化について話し合おうとしている。 ・伝統的な言語文化に関するこれまでの学習をふまして、積極的に語感を磨き、言語文化を大切にしようとしている。 ・聞き取った情報を進んで整理し、学習課題に沿って、要点を伝えようとしている。	・授業観察 ・ノート ・創作作品 ・定期考査 ・ワークブック ・発表 ・ワークシート ・自己評価表
二　新しい視点で ダイコンは大きな根？	11	●比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使うことができる。 ●説明の文章を読み、理解したことや考えたことを報告したり文章にまとめたりする。 ●比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使うことができる。 ●比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使うことができる。 ●目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。 ●指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めることができる。	・比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。 —本文中で比較がどのように使われているかを理解している。 ・比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。 —筆者の主張と事例との関係を整理している。 ・比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。 —情報の整理のしかたを理解し、情報を比較したり、分類したりしている。	・「読むこと」において、文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握している。 —「問い」と「答え」から中心的な部分を捉え、筆者の主張を理解している。 ・「読むこと」において、文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握している。 —序論・本論・結論の段落のまとまりに着目し、要旨を捉えている。	・文章の中心的な部分と付加的な部分について積極的に捉え、今までの学習を生かして筆者の説明の工夫を伝え合おうとしている。 ・進んで要旨を把握し、学習の見通しをもって考えたことを伝え合おうとしている。 ・情報の整理のしかたについて積極的に理解を深め、学習したことを生かして練習問題に取り組もうとしている。	
三　言葉に立ち止まる 空の詩　三編	13	●事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 ●比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使うことができる。 文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握することができる。 ●言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ●解説の文章を読み、理解したことや考えたことを報告したり文章にまとめたりする。 ●単語の類別について理解することができる。	・事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。—詩の中の語句の意味を捉えながら、語感を磨き、語彙を豊かにしている。 ・比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使っている。 —表現の技法を理解し、表現を工夫して詩を書いている。 ・比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使っている。 —比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法について、具体的な言葉を挙げて指摘している。 ・比喩などの表現の技法を理解し使っている。 —文中で使われている比喩の文脈上の意味を理解している。	・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。 —詩に描かれている情景を想像し、具体的な叙述を取り上げて表現の効果を考えている。 ・「書くこと」において、根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。 —自分の思いが読み手に伝わるように、言葉や表現を工夫して詩を書いている。 ・「書くこと」において、根拠の明確さなどについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。 —読み手の助言から、創作した詩のよい点や改善点を理解している。 ・「読むこと」において、文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握している。 —各段落の役割を理解し、文章の中心と	・詩の構成や展開、表現の効果について積極的に考え、学習の見通しをもって詩を創作しようとしている。 ・比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法について、学習課題に沿って、積極的に理解を深めようとしている。 ・進んで比喩について理解し、学習課題に沿って言葉について考えを深めようとしている。 ・今までの学習を生かして、積極的に事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、詩や文章の中で使おうとしている。	
四　心の動き 大人になれなかった弟たちに……	17	●読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解することができる。 ●場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えることができる。 ●言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。 ●記録の文章を読み、理解したことや考えたことを報告したり文章にまとめたりする。 ●事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊か	・読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。 —戦時中という時代背景や、その中で暮らす人々の生活苦を理解するうえで、読書が役立つことを理解している。 ・比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。 —場面や描写の結び付きを、図などを用いて整理・比較している。 ・比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。 —情報を項目ごとに整理することを理解し、案内文の作成に生かしている。 ・事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 —正確でわかりやすい表現に書き改めている。 ・共通語と方言の果たす役割について理解している。 —共通語と方言の役割や特徴について理	・「読むこと」において、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。 —描写に着目し、登場人物の行動の理由や心情の変化を捉えている。 ・「読むこと」において、場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈している。 —場面ごとの状況や、場面と人物などの描写を結び付けて、内容を読み深めている。 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。 —伝えたい事柄・相手に応じて、必要な情報が明確に伝わるように、項目ごとに整理している。 ・「書くこと」において、書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えている。 —相手が必要とする情報を明確に伝えるために、案内文の構成を考えている。 ・「書くこと」において、読み手の立場に立って、表記や語句の用法、敬語のしかたなどを確かめて、文章を整えている。 —読み手の立場に立って、誤記はないか、表現は適切か、伝える情報が正確にわかりやすく書けているかなどを検討している。	・登場人物の心情の変化などについて、描写を基に積極的に捉え、学習したことを生かして朗読しようとしている。 ・進んで場面と場面、場面と描写などを結び付けて内容を解釈し、学習の見通しをもって考えを伝え合おうとしている。 ・必要な情報を積極的に集めて整理し、学習の見通しをもって案内文を書こうとしている。 ・粘り強く文章を推敲し、今までの学習を生かして案内文を書き改めようとしている。 ・今までの学習を生かして、積極的に共通語と方言の果たす役割について理解しようとしている。	
五　筋道を立てて 「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ	15	●原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。 ●文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができる。 ●言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。 ●記録の文章を読み、理解したことや考えたことを報告したり文章にまとめたりする。 ●事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊か	・原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。 —筆者の意見とそれを支える根拠との関係を理解している。 —適切な根拠や、意見と根拠の結び付きについて理解している。 ・比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。 —情報を整理し、自分の考えを裏づける資料やデータを選び、出典の示し方に気をつけながら引用している。	・「読むこと」において、文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えている。 —文章の構成や展開の効果について、根拠となる段落や部分を挙げて考えを書いている。 ・「書くこと」において、根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。 —集めた資料やデータを根拠として明確に示しながら、自分の考えを書いている。 ・「書くこと」において、根拠の明確さなどについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点などを見いだしている。	・文章の構成や展開について粘り強く考え、学習の見通しをもって考えたことを文章にまとめようとしている。 ・根拠の客観性や理由づけに無理がないかを積極的に検討し、学習課題に沿って、意見と根拠の関係について理解を深めようとしている。 ・根拠を明確に示すことを粘り強く考え、学習の見通しをもってレポートを作成しようとしている。	
六　いにしえの心にふれる 古典の世界	8	●古典にはさまざまな種類の作品があることを知っている。 ●音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむことができる。 ●文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができる。 ●言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。 ●古文を読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする。 ●音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、漢文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむことができる。 ●漢文を読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする。	・古典にはさまざまな種類の作品があることを知っている。 —小学校から親しんできた古典の作品を思い起こし、古典にはさまざまな種類の作品があることを理解している。 ・音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。 —言葉の調子や間の取り方などを意識して音読している。 ・音読に必要な文語のきまりや、古典特有のリズムを確かめながら音読し、古典の世界に親しんでいる。 —訓読のしかたや漢文特有のリズムを確かめながら音読し、古典の世界に親しんでいる。	・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしている。 —文章を読み、登場人物の思いや行動、現代との共通点や相違点について考えを深めている。 —本文を読んで故事成語について理解したことに基づいて、自分の体験と故事成語を結び付けて考え、短い文章を書いている。 ・「書くこと」において、書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えている。 —故事成語と自分の体験とを重ねて、書く内容の中心が明確になるように文章の展開や構成を考えている。	・古文を積極的に、繰り返し音読し、3年間の学習の見通しをもって、古典の世界に親しもうとしている。 ・進んで古文を音読し、今までの学習を生かして、描かれている古典の世界を想像しようとしている。 ・積極的に漢文を音読し、今までの学習を生かして故事成語を使った文章を書こうとしている。	
七　価値を見いだす 「不便」の価値を見つめ直す	12	●原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。 ●比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使うことができる。 ●目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈することができる。 ●文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができる。 ●根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。 ●言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。 ●説明の文章を読み、理解したことや考え	・原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。 —自分の意見を述べるときには、根拠が必要であることを理解している。 ・比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。(2)イ) —情報の整理のしかたを理解し、必要な情報を選び、結び付けて、本文を要約している。 —原因と結果がどうつながっているか整理し、その関係について理解している。 —根拠を述べたり、前の人の意見を受けたりして話すことを理解している。	・「読むこと」において、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈している。 —目的に応じて必要な情報に着目し、要約している。 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしている。(C1)オ)　—文章を読んで理解したことに基づいて、筆者の主張に対する自分の考えをまとめている。 ・「書くこと」において、根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。—立場を明確にして、自分の考えの根拠となる事例を挙げながら、意見を書いている。 ・「話すこと・聞くこと」において、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめている。 —動画を視聴し、話題や展開を捉えながら	・必要な情報に着目して、粘り強く要約し、話行値目しながら自分の考えを文章にまとめようとしている。 ・今までの学習を生かして、積極的に原因と結果の関係について理解しようとしている。 ・進んで話題や展開を捉え、学習課題に沿って、話し合いをより深めるために気をつけることについて、考えをまとめようとしている。	
八　自分を見つめる 少年の日の思い出	28	●事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 ●文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。 ●文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができる。 ●根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。 ●言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。 ●小説を読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする。	・事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 —行動描写や情景描写、心情を表す言葉に着目している。	・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。 —時間・場所・出来事・語り手に着目して作品の構成や展開を捉えたり、具体的な表現を挙げてその効果について自分の考えをまとめたりしている。 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしている。 —登場人物のものの見方について、自分の考えをもっている。 ・「書くこと」において、根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。 —読み深めたことを基に、別の人物の視点から出来事や心情を捉え直して、作品を書き換えている。	・文章の構成や展開、表現の効果について積極的に考え、学習の見通しをもって別の人物の視点から文章を書き換えようとしている。	
書写	20	・姿勢・執筆、用具の扱い、楷書の点画の特徴などを正しく把握している。 ・漢字や仮名の字形や大きさを理解しようとしている。 ・書き初めを書くにあたり、自分の課題を見つけ、練習を重ねている。 ・字形を整えることを意識して書いている。	・楷書の特徴を理解し、止めやはらいに注意して書いている。 ・漢字と仮名の調和を理解して書いている。 ・課題文字の特徴を理解し、筆づかいに注意して書いている。 ・さまざまな筆記用具を使って、用途に合わせた文字を書いている。 ・姿勢・執筆、用具の扱い、楷書の点画の特徴などを正しく把握している。	・字形を整えることを意識して書いている。	・すすんで漢字や仮名の字形や大きさを理解しようとしている。 ・書き初めを書くにあたり、自分の課題を見つけ、粘り強く練習を重ねている。	